

V 調査結果からみえる課題

資料2-1

1 介護予防・重度化防止の推進

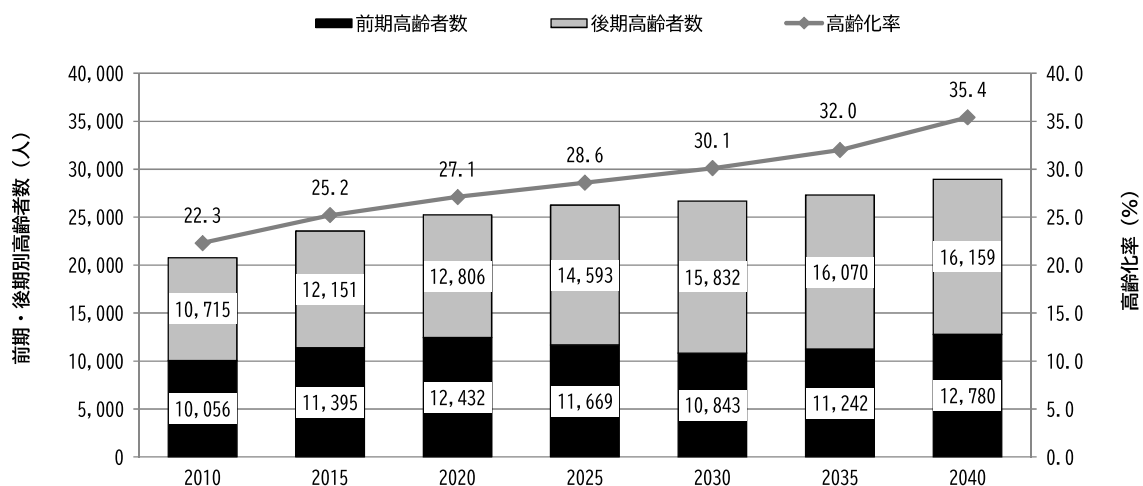
1-1 生活機能評価

- ▶ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（以下「ニーズ調査」と言います）の回答から、各種リスクの該当者を年齢階層別でみると、「低栄養の傾向」、「うつ傾向」以外は年齢が上がるにつれてリスクが高くなっている傾向があります。
- ▶ 北上市の人口については、総人口の減少・高齢者人口の増加により、高齢化率は上昇を続けると人口推計において予測されています。また、高齢者人口における後期高齢者の割合が今後増えていくことも予測されており、各種リスクの該当者数も増大していく可能性があることから、介護予防・重度化防止の推進が重要な課題であると考えられます。

【ニーズ調査：年齢階層別リスク該当者割合】

	市全体	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
運動器機能の低下	26.4	8.8	13.1	20.3	35.8	49.7	67.6
低栄養の傾向	2.2	2.0	1.4	2.0	1.7	3.8	3.7
口腔機能の低下	29.4	19.6	22.9	27.5	36.3	42.2	42.9
閉じこもり傾向	26.4	9.4	15.6	22.8	37.0	46.8	54.3
認知機能の低下	49.9	38.2	42.4	46.2	58.7	65.1	68.5
うつ傾向	45.3	45.5	40.9	38.3	52.4	50.9	53.0
転倒リスク	39.1	29.0	31.2	38.7	45.4	52.3	54.3
IADLの低下者	25.3	9.9	9.6	17.0	34.6	49.4	71.7

【統計データ：人口推計】

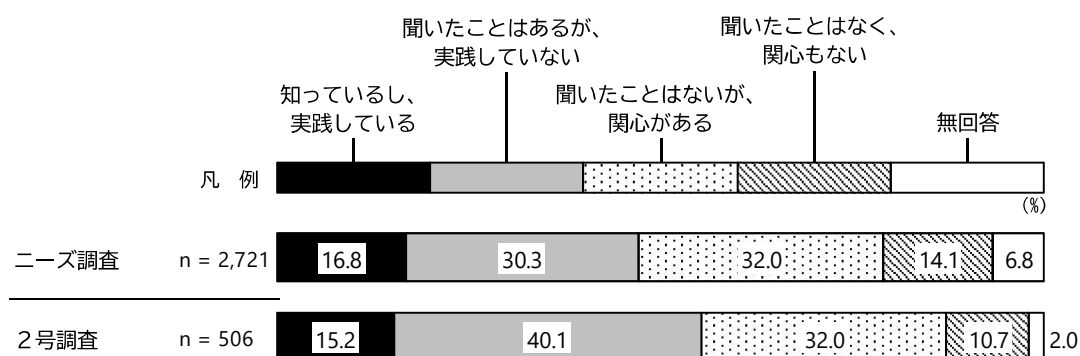


※出典：第10次北上市高齢者福祉計画・第9期北上市介護保険事業計画（令和6年）

1-2 介護予防の実践状況

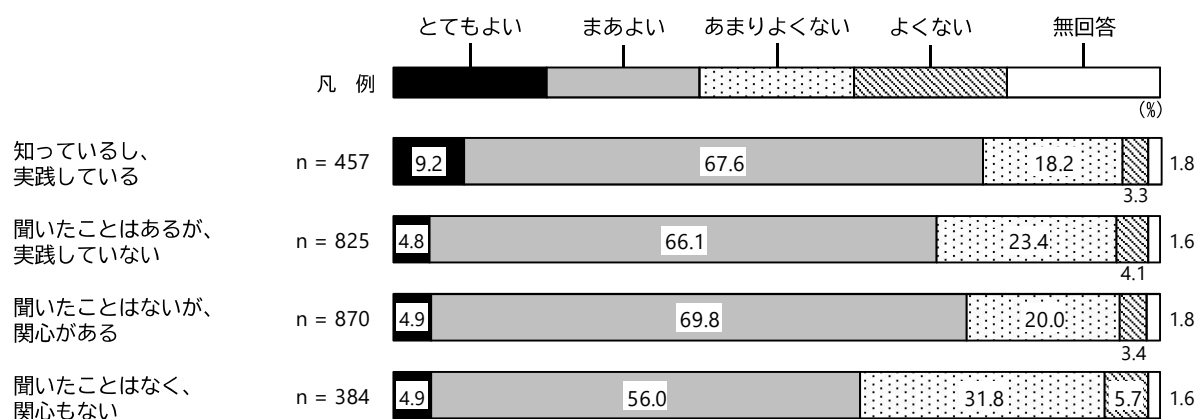
- ▶ 介護予防のための体づくりについて、「知っているし、実践している」の割合をみると、ニーズ調査では16.8%、第2号被保険者調査（以下「2号調査」と言います）では15.2%となっています。

【ニーズ調査・2号調査：介護予防のための体づくり】



- ▶ ニーズ調査において、「介護予防のための体づくり」の実践状況別に健康状態をみると、『健康状態がよい』（「とてもよい」＋「まあよい」）割合が最も高いのは介護予防の体づくりを“知っているし、実践している”方となっています。
- ▶ また、前期高齢者と後期高齢者に分けて、「介護予防のための体づくり」の実践状況別に各種リスクの該当者割合をみると、前期高齢者と後期高齢者のどちらにおいても、介護予防のための体づくりを実践している場合、全体的に各種リスクの該当割合が低い結果となっています。

【ニーズ調査：介護予防実践状況別の健康状態】



【ニーズ調査：高齢者区分別・介護予防実践状況別のリスク該当割合】

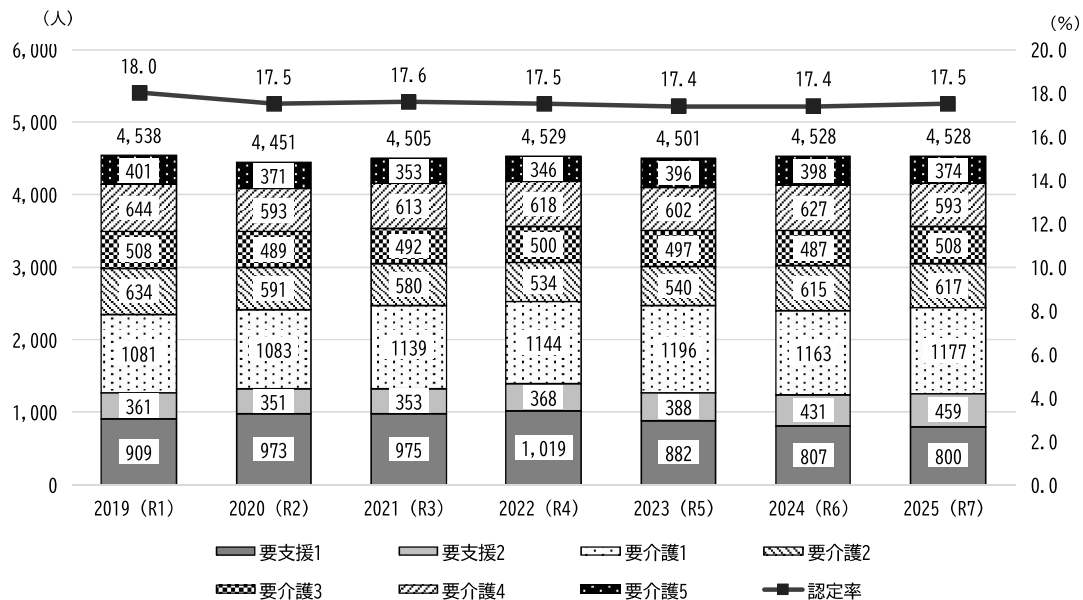
		(%)							
		運動器	低栄養	口腔機能	閉じこもり	認知機能	うつ傾向	転倒リスク	IADL低下
前期高齢者	実践あり	8.0	1.1	12.6	9.1	33.1	41.1	20.6	9.7
	実践なし	11.3	1.9	23.3	13.3	42.0	44.0	31.9	9.5
後期高齢者	実践あり	32.6	1.4	31.2	27.0	51.4	43.6	40.8	27.0
	実践なし	39.1	2.5	36.3	38.4	57.3	47.5	47.5	38.2

※実践あり…「知っているし、実践している」

実践なし…「聞いたことはあるが、実践していない」＋「聞いたことはないが、関心がある」
＋「聞いたことはなく、関心もない」

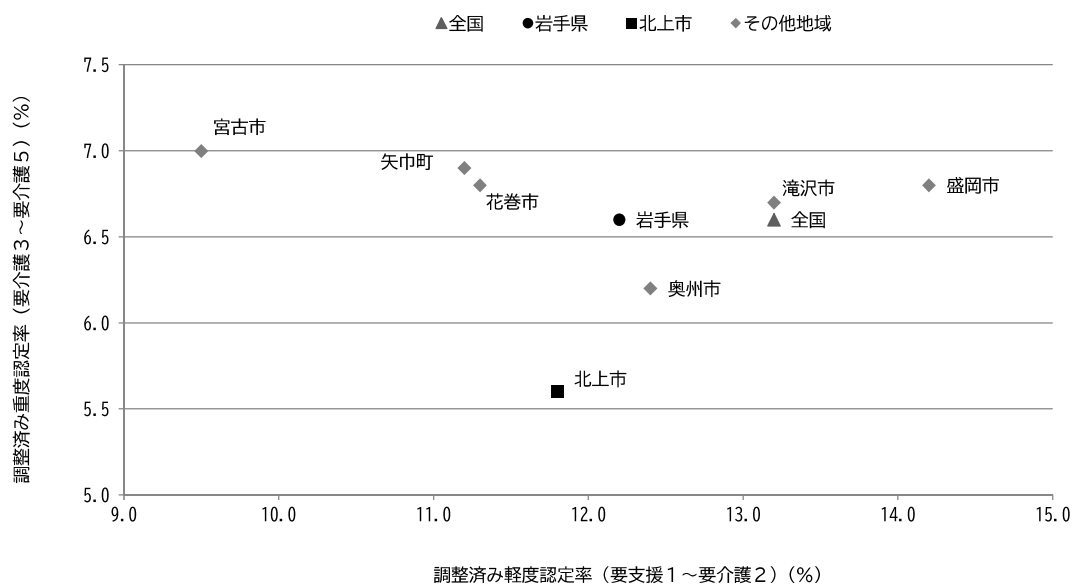
- ▶ 統計データからみると、北上市の第1号被保険者の要支援・要介護認定者数は、近年は横ばいで推移しています。他自治体に比べ重度認定率が低いことが特徴です。
- ▶ 一方、今後は後期高齢者の増加も見込まれる中では、認定率増加や重度化のリスクもあることから、介護予防・重度化防止の推進を図るため、引き続き関係機関等を通じた事業周知や広報等を通じた啓発を推進することが必要であると考えられます。

【統計データ：要支援・要介護認定者数・認定率の推移】



※出典：地域包括ケア「見える化」システム

【統計データ：調整済認定率比較（令和6年度）】



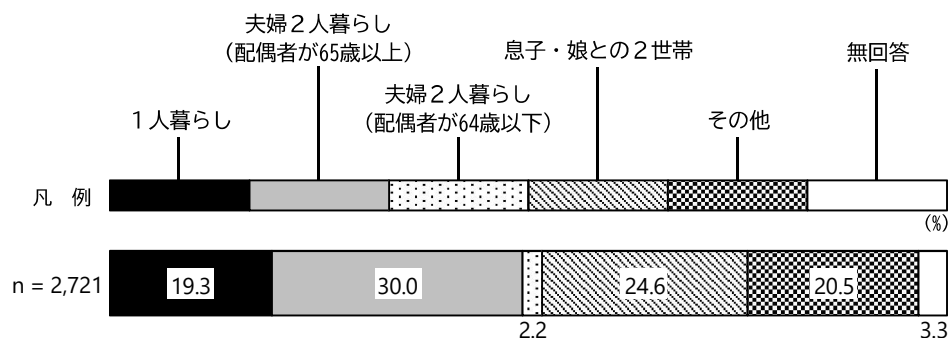
※出典：地域包括ケア「見える化」システム

2 1人暮らし高齢者への支援

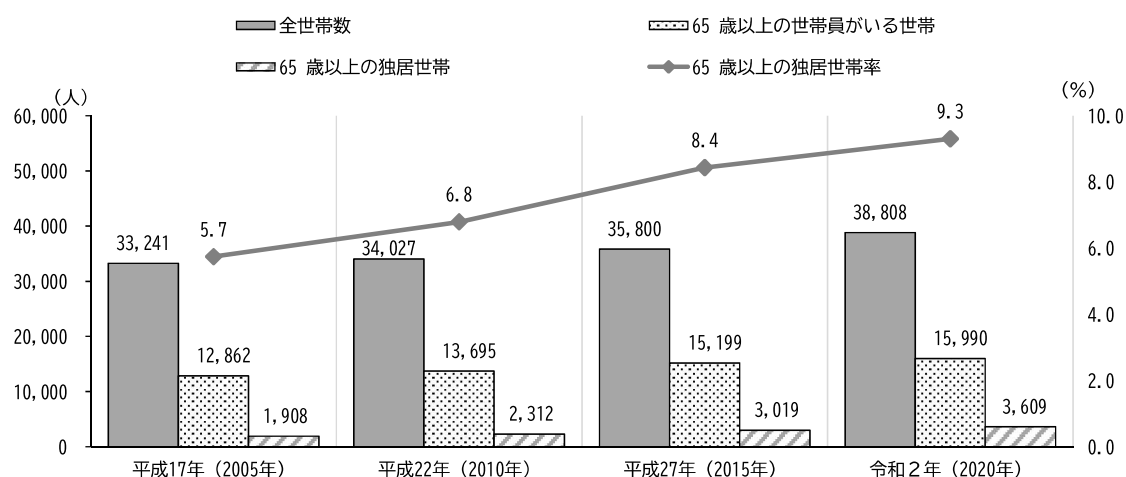
2-1 高齢者を含む世帯の状況

- ▶ ニーズ調査回答者の世帯構成については、「1人暮らし」(19.3%)と「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」(30.0%)を合わせた『高齢者のみ世帯』は49.3%となっています。
- ▶ 統計データからみると、高齢者数の増加に伴い、高齢者のいる世帯は増加しています。平成17年(2005年)では12,862世帯であったのに対し、令和2年(2020年)では15,990世帯と24.3%の増加となっています。
- ▶ 併せて、高齢者の独居世帯数・独居世帯率も増加傾向にあります。今回のアンケート結果で30.0%となっている「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」は、今後配偶者死別等による「1人暮らし」に変化していくことが想定されます。

【ニーズ調査：世帯構成】



【統計データ：高齢者を含む世帯の推移】

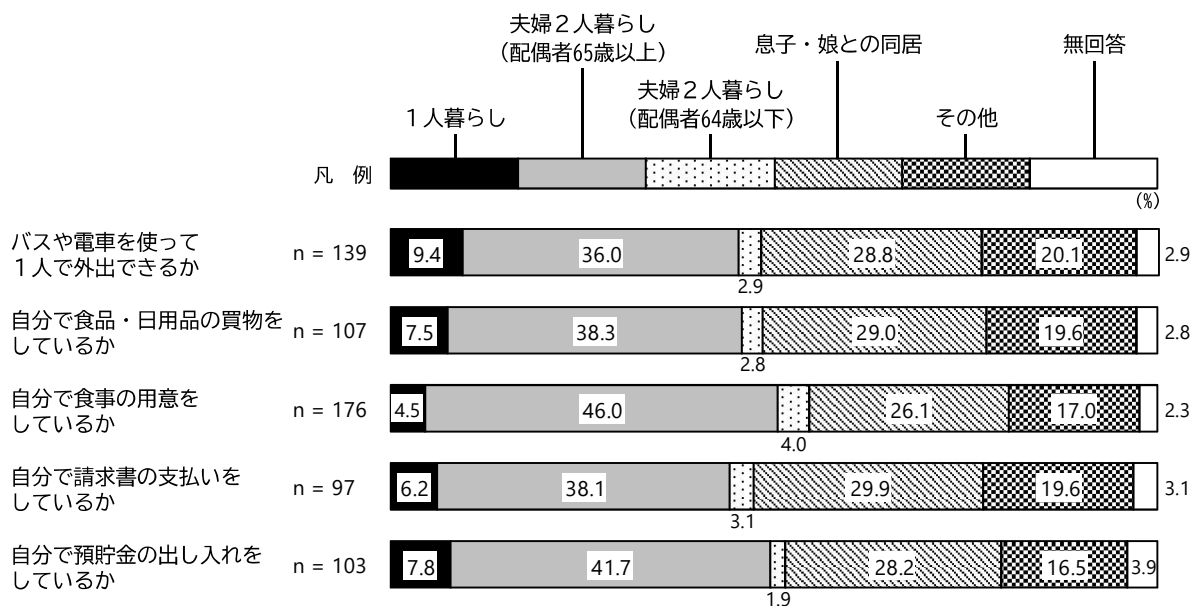


※出典：国勢調査（各年10月1日）

2-2 高齢者の生活状況

- ▶ ニーズ調査において、各日常活動を「できない」と回答した男性の世帯構成を分析したところ、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」の割合も一定数を占めています。これらの男性が単身世帯となったときに備えた支援体制の強化がとりわけ必要と考えられます。
- ▶ また、世帯構成別に、病気の際に看病や世話をしてくれる人の状況をみると、1人暮らしの高齢者のうち25.1%が「そのような人はいない」と回答しています。今後、さらなる増加が見込まれる単身高齢者の生活について、相談支援体制や地域住民の見守り体制の強化等、社会全体でどのようにして支えていくかが課題であると考えられます。

【ニーズ調査：各日常活動について、「できない」男性の世帯構成】



【ニーズ調査：世帯構成別・病気の際に看病や世話をしてくれる人がいない人の割合】

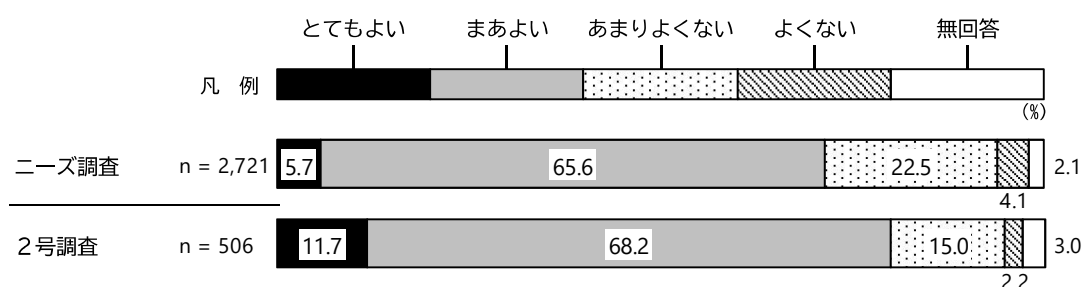
世帯構成別・病気の際に看病や世話をしてくれる人がいない人の割合 (%)	
世帯構成	割合
1人暮らし	25.1
夫婦2人暮らし（配偶者が65歳以上）	3.4
夫婦2人暮らし（配偶者が64歳以下）	3.3
息子・娘との2世帯	1.6
その他	4.3

3 健康づくりの推進

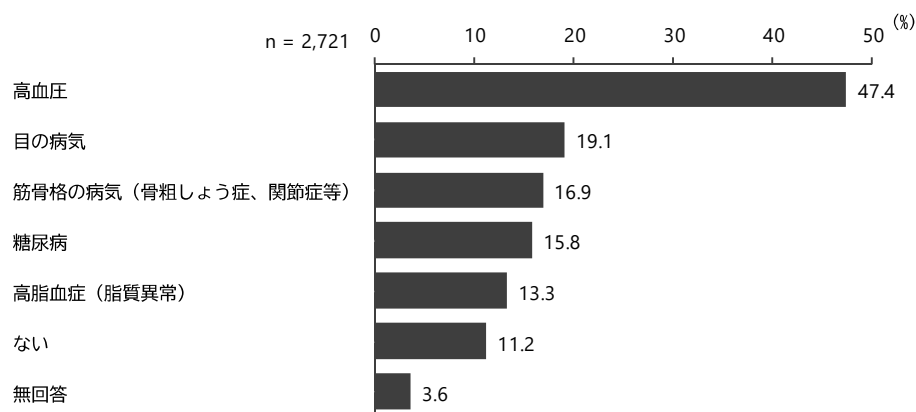
3-1 健康課題

- ▶ 主観的健康感について、「まあよい」と「とてもよい」を合わせた『健康状態がよい』割合をみると、ニーズ調査では71.3%、2号調査では79.9%となっています。
- ▶ 一方、現在治療中、または後遺症のある病気は、ニーズ調査では「高血圧」が47.4%と最も高く、次いで「目の病気」(19.1%)、「筋骨格の病気」(16.9%)となっており、何らかの病気、または後遺症のある高齢者は85.2%となっています。また、2号調査においても、現在治療中または経過観察中の病気で「高血圧症」が2割を超えています。高血圧は、脳血管疾患などの要介護状態の原因となる主要な生活習慣病であり、予防・重症化防止の重点項目となります。生活習慣病予防のための健診の受診勧奨や、健康づくりの意識向上、知識の普及啓発を図る必要があると考えられます。

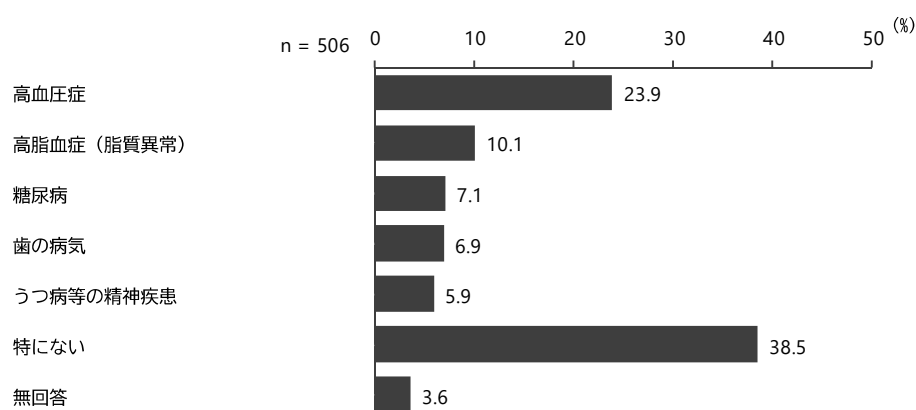
【ニーズ調査・2号調査：現在の主観的健康感】



【ニーズ調査：現在治療中、または後遺症のある病気】※上位5位+「ない」「無回答」



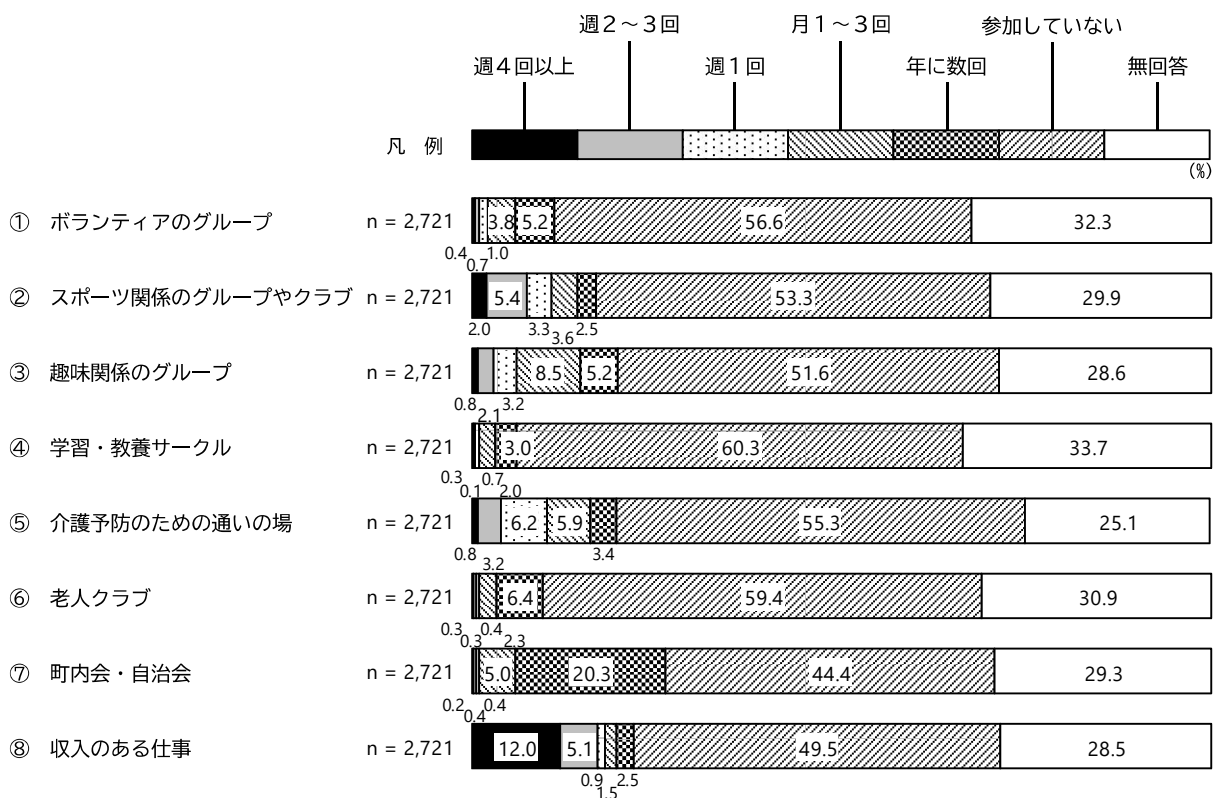
【2号調査：現在治療中、または経過観察中の病気】※上位5位+「ない」「無回答」



3-2 地域活動への参加状況

- ▶ 健康づくりの推進にあたっては、生きがいきりや社会との関わりも重要となります。高齢者の地域における会・グループ等の参加状況について、“⑤介護予防のための通いの場”や“⑧収入のある仕事”は月1回以上の参加者の割合が比較的高くなっています。
- ▶ 調査結果において「参加していない」割合が高くなっている“④学習・教養サークル”や“⑥老人クラブ”も、高齢者の健康づくりや生きがいきりへの支援を行っていくうえでは重要な役割を担っていることから、引き続き支援を継続していく必要があると考えられます。

【ニーズ調査：会・グループ等の参加状況】



月1回以上の参加割合

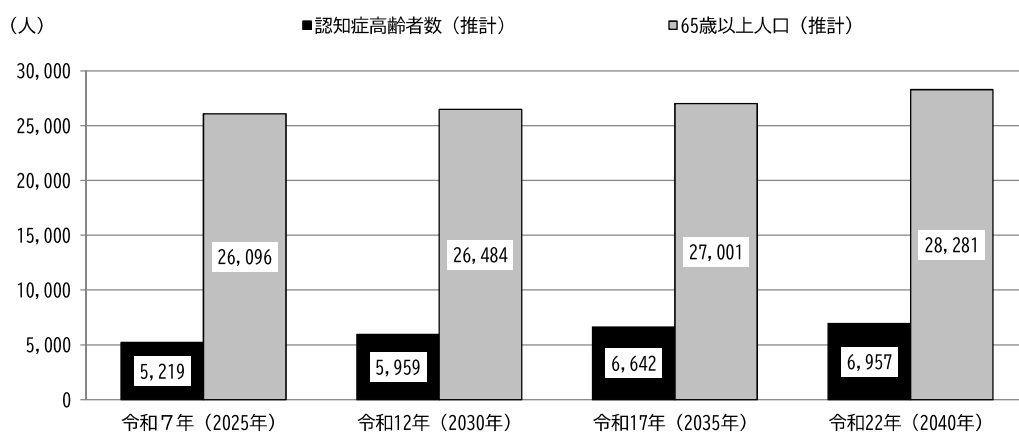
会・グループ	割合 (%)
① ボランティアのグループ	6.0
② スポーツ関係のグループやクラブ	14.3
③ 趣味関係のグループ	14.6
④ 学習・教養サークル	3.1
⑤ 介護予防のための通いの場	16.1
⑥ 老人クラブ	3.3
⑦ 町内会・自治会	6.0
⑧ 収入のある仕事	19.5

4 認知症施策の充実

4-1 認知症高齢者の現状

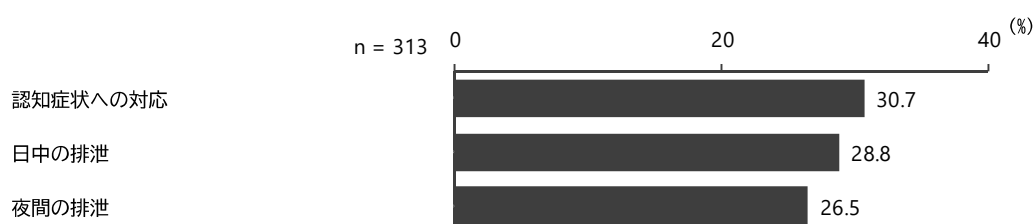
- ▶ 高齢になるほど認知症の発症リスクは高まるといわれています。第10次北上市高齢者福祉計画・第9期北上市介護保険事業計画策定時の推計では、北上市の認知症高齢者数（65歳以上）は令和12年（2030年）に5,959人、令和22年（2040年）には6,957人になると予測されています。
- ▶ 在宅介護実態調査においては、介護者が不安に感じる介護として、「認知症状への対応」が30.7%と最も高くなっています。今後、認知症高齢者数の増加が見込まれる中で、認知症になっても地域で安心して暮らし続けられるよう、認知症の人や家族の意見を踏まえた支援体制の整備をさらに進める必要があると考えられます。
- ▶ また、ニーズ調査においては、認知症に対するイメージとして、「認知症になっても、医療・介護などサポートを利用しながら、住み慣れた地域で生活できる」が25.3%と最も高いものの、「認知症になると、身の回りのことが出来なくなり、介護施設に入所する必要がある」、「認知症になると、症状が次第に進み、何もできなくなってしまう」といった、認知症は直ちに重度化し、在宅生活が困難になるという印象が認識されている現状もみられます。認知症の人やその家族が孤立することのない地域社会の実現に向けて、認知症は誰もがなり得る身近なものであること、適切な支援により地域での生活が可能であること等について、広報・啓発活動を推進することも重要であると考えられます。

【統計データ：認知症高齢者数の推計】

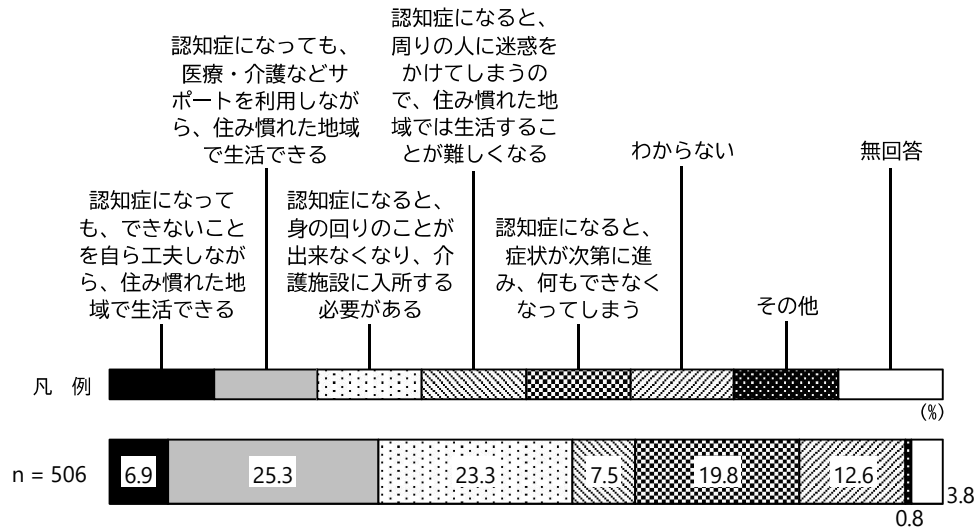


※出典：第10次北上市高齢者福祉計画・第9期北上市介護保険事業計画（令和6年）

【在宅介護実態調査：介護者が不安に感じる介護】※上位3位



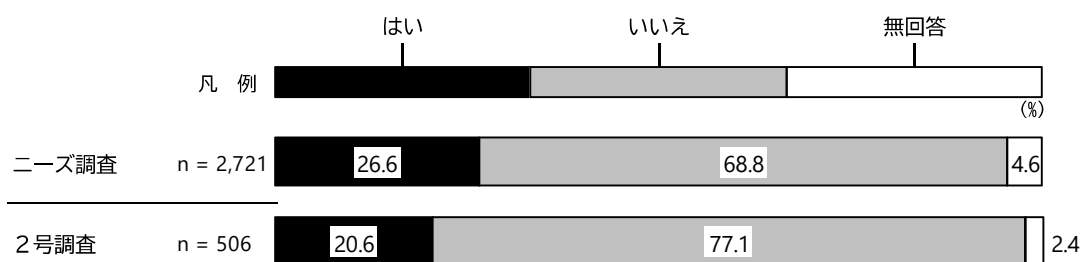
【ニーズ調査：認知症に対するイメージ】



4-2 市の認知症施策に対する認識

- ▶ 認知症に関する相談窓口の認知度について、ニーズ調査、2号調査ともに「いいえ」が「はい」を大きく上回っています。
- ▶ 認知症は早期の気づきと適切な相談・支援につなげることが、その後の生活の質の維持や家族の負担軽減に大きく影響すると考えられることを踏まえ、地域包括支援センターをはじめとする認知症相談窓口の役割や機能について、市広報紙やホームページ、出前講座、関係機関との連携を通じた情報発信を強化し、市民にとって身近で分かりやすい相談体制の周知に一層取り組む必要があります。

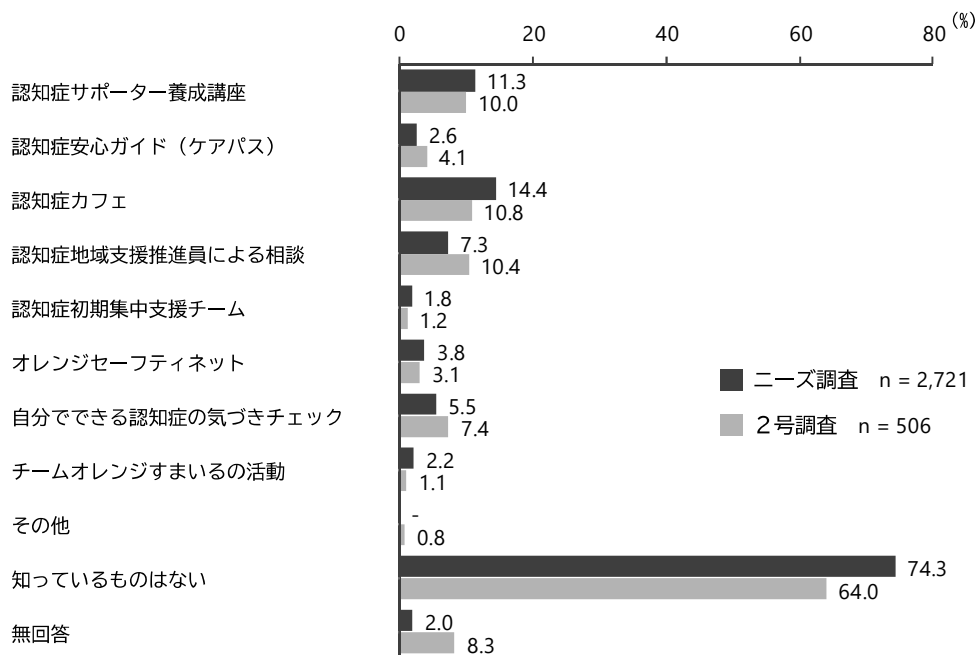
【ニーズ調査・2号調査：認知症に関する相談窓口の認知度】



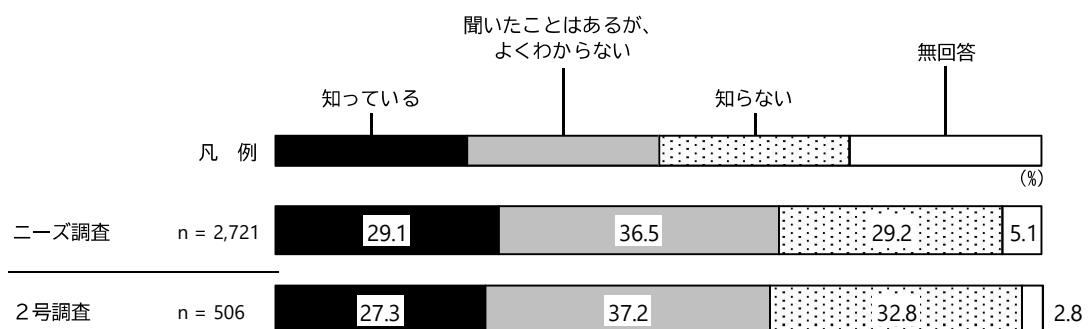
V 調査結果からみえる課題

- ▶ また、北上市の認知症施策の認知状況についてみると、ニーズ調査、2号調査ともに「知っているものはない」が6割以上となっています。
- ▶ 併せて、判断能力が不十分となった高齢者や障がいのある方の権利擁護に関連する成年後見制度についても、ニーズ調査、2号調査ともに認知度が低い状況がみられます。
- ▶ 認知症は高齢期に限った問題ではなく、40～64歳の世代は親世代の介護を担う立場となる可能性が高いことを踏まえ、将来的な介護負担の軽減や早期相談の促進の観点からも、認知症に関する基礎的理解や支援制度の認知を高めることが必要であると考えられます。

【ニーズ調査・2号調査：北上市の認知症施策の認知状況】



【ニーズ調査・2号調査：成年後見制度の認知度】

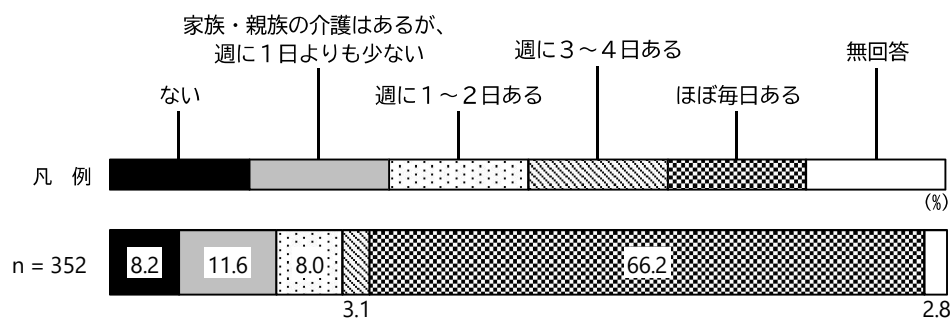


5 在宅生活の継続と介護者への支援

5-1 在宅生活の継続

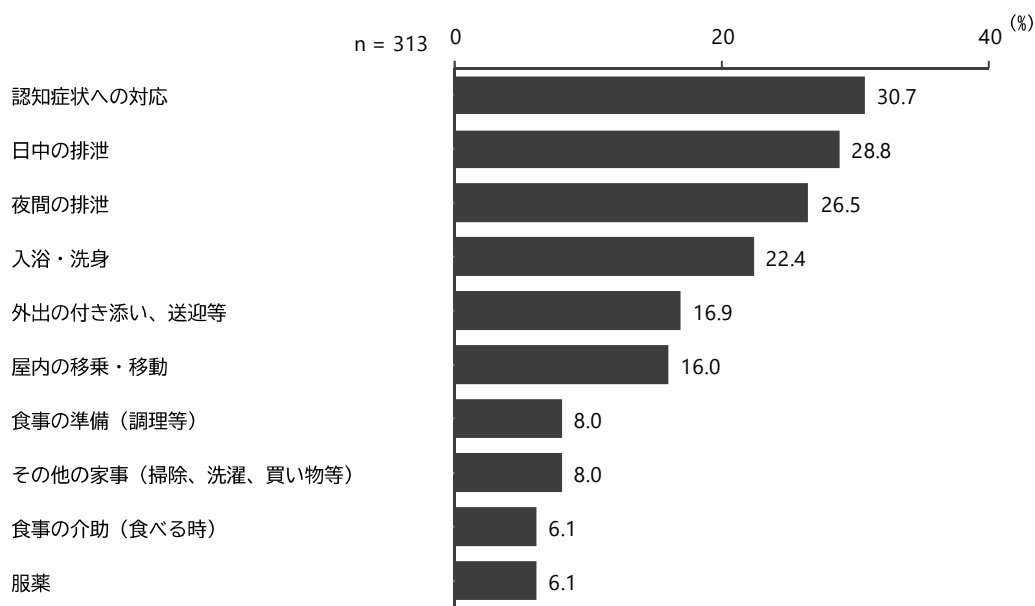
- ▶ 在宅介護実態調査における、家族等からの介護の頻度については、対象者の6割以上がほぼ毎日介護を受けられている状況です。現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等については、先述した「認知症状への対応」のほか、排泄や入浴などのお世話、移動に関する支援など、様々な内容で介護に不安を抱えていることがわかります。
- ▶ 今後の在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービスとしては、「外出同行（通院、買い物など）」や「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の移動支援に関する項目が上位となっています。また、ニーズ調査において、外出を控えている高齢者が、外出を控えている理由の第2位として「交通手段がない」ことが挙げられており、在宅介護を支える視点と高齢者の社会参加を促進する視点の双方から、外出・移動に関する支援の充実が求められていると考えられます。
- ▶ 在宅生活の継続における課題は、身体機能の低下、認知機能の変化、外出や社会参加の制約といった複合的な要因によって構成されていることを踏まえ、各種ニーズを踏まえながら、訪問系サービスや通所系サービスの充実、認知症支援体制の強化、移動支援の確保など、多様なニーズに対応できるサービス基盤の整備を検討していくとともに、相談支援機能の強化を図り、本人と家族双方を支える体制づくりを推進していく必要があると考えられます。

【在宅介護実態調査：家族等からの介護頻度】

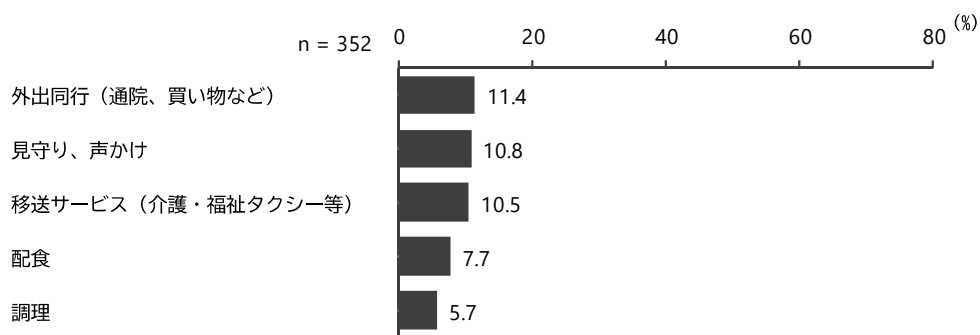


V 調査結果からみえる課題

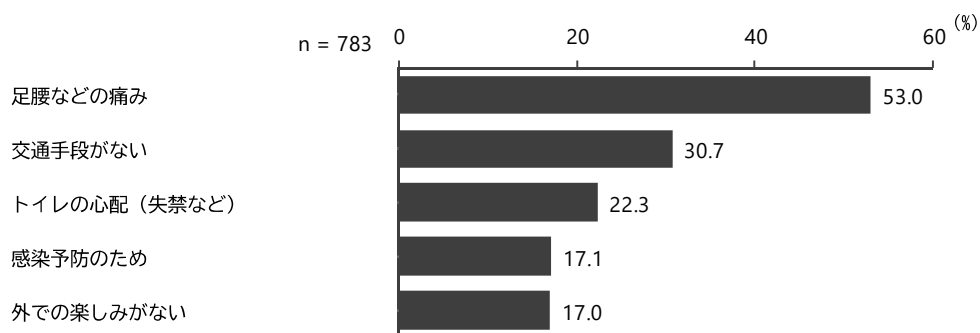
【在宅介護実態調査：現在の生活を継続していくにあたって、
主な介護者の方が不安に感じる介護等】※上位 10 位



【在宅介護実態調査：今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス
（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）】※上位 5 位

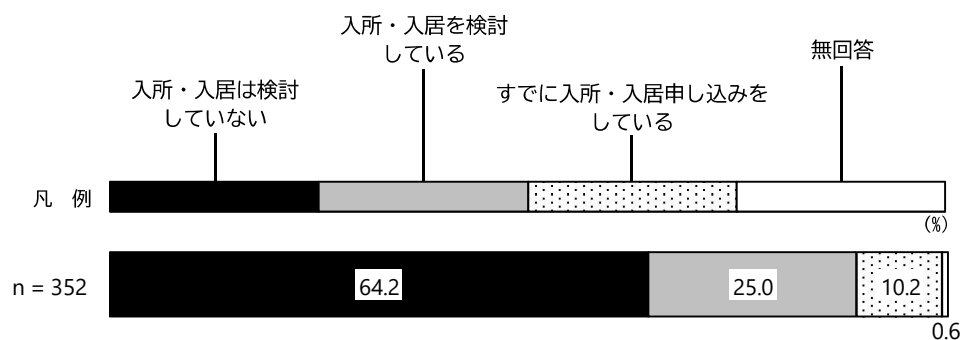


【ニーズ調査：外出を控えている方が、外出を控える理由】※上位 5 位

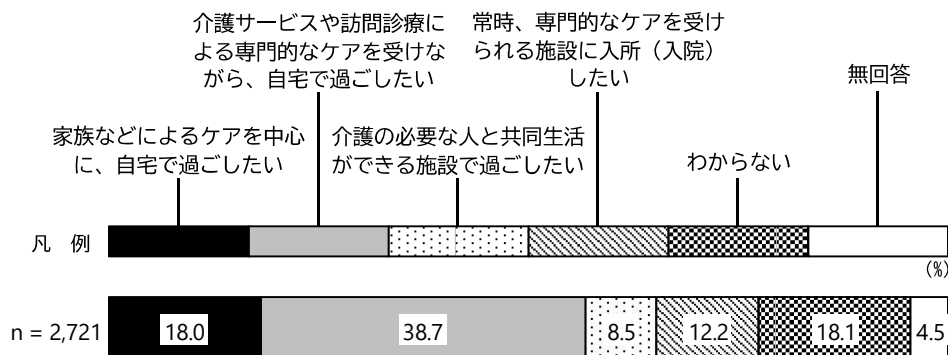


- ▶ 在宅介護実態調査における、施設等への入所・入居の検討状況については、「入所・入居を検討していない」が64.2%と最も高いものの、「入所・入居を検討している」(25.0%)、「すでに入所・入居申し込みをしている」(10.2%)が合わせて35.2%となっています。
- ▶ また、ニーズ調査においては、介護や医療ケアが必要になった時の暮らし方の希望については、「介護サービスや訪問診療による専門的なケアを受けながら、自宅で過ごしたい」が38.7%と最も高いものの、次いで「家族などによるケアを中心に、自宅で過ごしたい」(18.0%)、「常時、専門的なケアを受けられる施設に入所(入院)したい」(12.2%)となっています。多くの方が可能な限り住み慣れた自宅での生活継続を望んでいることがうかがえる一方で、一定割合の方は施設での生活を希望している状況もみられます。
- ▶ 統計データから、北上市の要支援・要介護者1人あたりの定員をみると、県内市町村や岩手県全体、全国に比べて、「通所系サービス」は地域の要支援・要介護者に対する提供可能な量が多く、「施設サービス」は少ない状況です。在宅生活の継続支援と併せて、今後も施設サービスの需要動向を的確に把握しながら、本人及び家族の状況や意向に応じた選択が可能となるよう、介護サービス基盤の整備を進めていく必要があると考えられます。

【在宅介護実態調査：施設等への入所・入居の検討状況】



【ニーズ調査：自身に介護や医療ケアが必要になった時、どのように暮らしたいと思うか】



V 調査結果からみえる課題

【統計データ：要支援・要介護者1人あたりの定員比較（令和6年時点）】

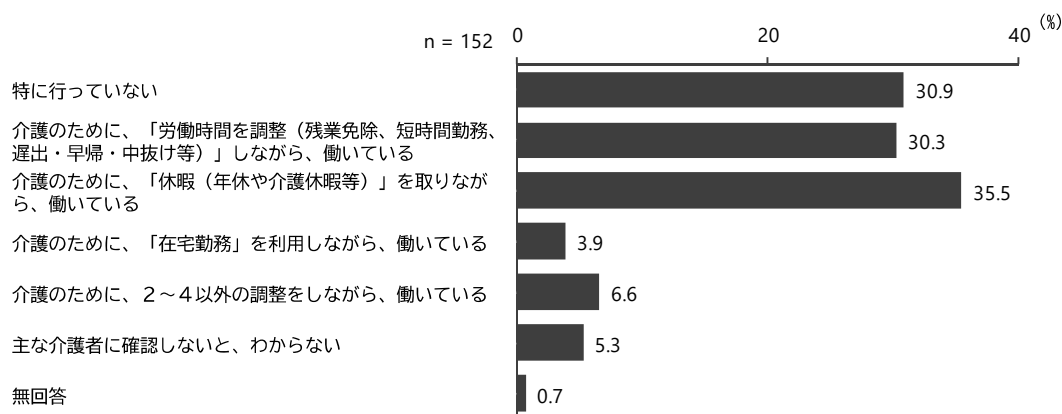
		全国	岩手県	北上市	盛岡市	宮古市	花巻市	奥州市	滝沢市	矢巾町
施設サービス	(人)	0.154	0.186	0.151	0.155	0.192	0.234	0.185	0.194	0.319
介護老人福祉施設	(人)	0.085	0.093	0.085	0.087	0.114	0.100	0.093	0.077	0.076
介護老人保健施設	(人)	0.052	0.071	0.042	0.052	0.060	0.087	0.054	0.117	0.219
介護療養型医療施設	(人)	0.001	-	-	-	-	-	-	-	-
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	(人)	0.009	0.02	0.024	0.007	0.018	0.047	0.038	-	0.023
介護医療院	(人)	0.007	0.002	-	0.009	-	-	-	-	-
居住系サービス	(人)	0.081	0.051	0.059	0.076	0.059	0.060	0.036	0.045	0.034
特定施設入居者生活介護	(人)	0.047	0.017	0.007	0.047	-	0.027	0.006	0.020	-
認知症対応型共同生活介護	(人)	0.032	0.033	0.046	0.029	0.053	0.034	0.029	0.025	0.034
地域密着型特定居住系入居者生活介護	(人)	0.001	0.002	0.006	-	0.006	-	-	-	-
通所系サービス	(人)	0.215	0.204	0.244	0.248	0.220	0.198	0.200	0.231	0.215
通所介護	(人)	0.112	0.108	0.127	0.138	0.097	0.115	0.117	0.164	0.120
地域密着型通所介護	(人)	0.036	0.031	0.018	0.044	0.045	0.021	0.021	0.019	0.050
通所リハビリテーション	(人)	0.041	0.036	0.055	0.049	0.033	0.034	0.038	0.031	0.018
認知症対応型通所介護	(人)	0.005	0.003	0.003	0.002	0.003	0.004	0.004	-	0.009
小規模多機能型居宅介護（宿泊）	(人)	0.006	0.008	0.008	0.004	0.014	0.007	0.005	0.004	0.006
小規模多機能型居宅介護（通い）	(人)	0.012	0.015	0.018	0.008	0.029	0.013	0.012	0.014	0.012
看護小規模多機能型居宅介護（宿泊）	(人)	0.001	0.001	0.005	0.001	-	0.001	0.001	-	-
看護小規模多機能型居宅介護（通い）	(人)	0.002	0.002	0.009	0.002	-	0.003	0.002	-	-

※出典：地域包括ケア「見える化」システム

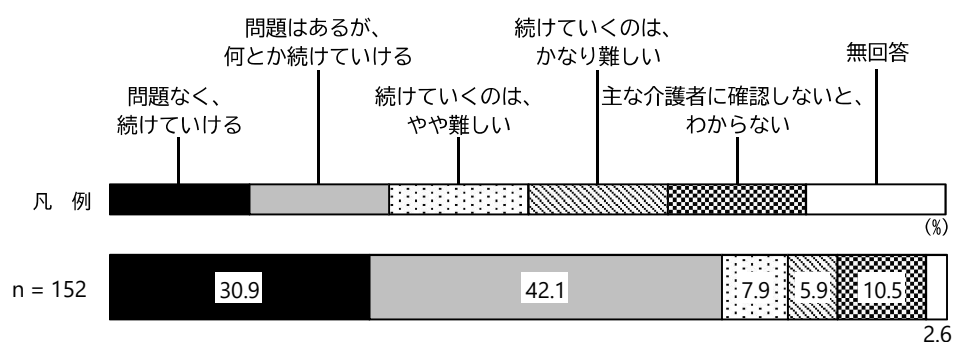
5-2 家族介護者の就労状況

- ▶ 主な介護者の働き方の調整状況については、多くの方が短時間勤務や休暇取得など何らかの調整を行っています。また、今後の仕事の継続については、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」と回答した方が合わせて13.8%となっており、在宅生活の継続を支えるにあたっては、要介護者本人への支援の充実に加え、介護者の身体的・精神的負担の軽減及び就労継続を支える支援体制が今後も必要であると考えられます。

【在宅介護実態調査：主な介護者の働き方の調整の状況】



【在宅介護実態調査：今後の仕事の継続について】



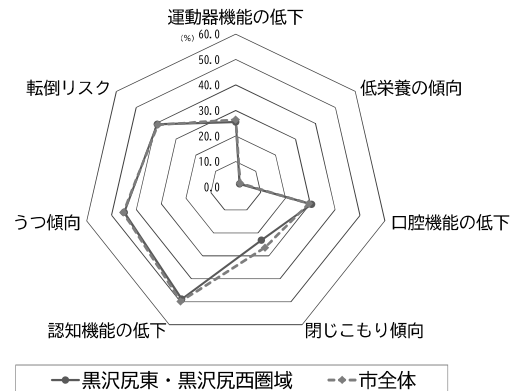
6 圏域別の状況

- ▶ 日常生活圏域別に、生活機能のリスク該当割合と、「第10次北上市高齢者福祉計画・第9期北上市介護保険事業計画」のビジョン指標に該当する回答結果を以下に整理しました。

6-1 黒沢尻東・黒沢尻西圏域の状況

【ニーズ調査：生活機能リスク該当者】

	市全体	黒沢尻東・黒沢尻西圏域
運動器機能の低下	26.4%	25.5%
低栄養の傾向	2.2%	1.9%
口腔機能の低下	29.4%	30.5%
閉じこもり傾向	26.4%	23.2%
認知機能の低下	49.9%	48.9%
うつ傾向	45.3%	44.9%
転倒リスク	39.1%	39.4%



【ニーズ調査：第10次計画ビジョン指標】

	市全体	黒沢尻東・黒沢尻西圏域	順位／8圏域中
主観的幸福感が高い人の割合(8点以上)	33.8%	32.9%	5番目
健康と感じている人の割合	71.3%	71.5%	3番目
暮らしやすいと感じている人の割合	63.8%	70.3%	1番目
生きがいがある人の割合	50.9%	52.6%	3番目

6-2 黒沢尻北圏域の状況

【ニーズ調査：生活機能リスク該当者】

	市全体	黒沢尻北圏域
運動器機能の低下	26.4%	28.5%
低栄養の傾向	2.2%	1.4%
口腔機能の低下	29.4%	26.1%
閉じこもり傾向	26.4%	23.4%
認知機能の低下	49.9%	45.2%
うつ傾向	45.3%	47.1%
転倒リスク	39.1%	33.3%



【ニーズ調査：第10次計画ビジョン指標】

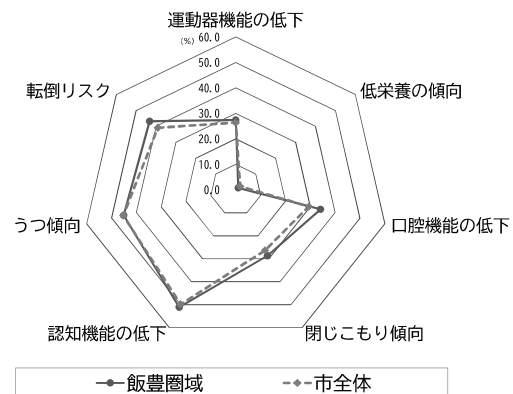
	市全体	黒沢尻北圏域	順位／8圏域中
主観的幸福感が高い人の割合(8点以上)	33.8%	35.7%	2番目
健康と感じている人の割合	71.3%	70.0%	5番目
暮らしやすいと感じている人の割合	63.8%	67.1%	2番目
生きがいがある人の割合	50.9%	51.9%	5番目

V 調査結果からみえる課題

6-3 飯豊圏域の状況

【ニーズ調査：生活機能リスク該当者】

	市全体	飯豊圏域
運動器機能の低下	26.4%	27.4%
低栄養の傾向	2.2%	1.3%
口腔機能の低下	29.4%	34.1%
閉じこもり傾向	26.4%	28.7%
認知機能の低下	49.9%	51.1%
うつ傾向	45.3%	45.1%
転倒リスク	39.1%	43.2%



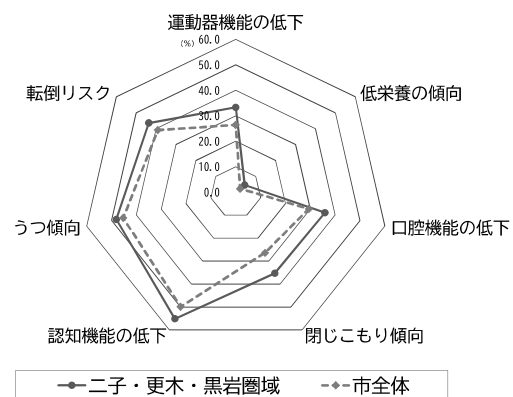
【ニーズ調査：第10次計画ビジョン指標】

	市全体	飯豊圏域	順位／8圏域中
主観的幸福感が高い人の割合(8点以上)	33.8%	31.2%	7番目
健康と感じている人の割合	71.3%	69.7%	7番目
暮らしやすいと感じている人の割合	63.8%	60.9%	6番目
生きがいがある人の割合	50.9%	48.6%	7番目

6-4 二子・更木・黒岩圏域の状況

【ニーズ調査：生活機能リスク該当者】

	市全体	二子・更木・黒岩圏域
運動器機能の低下	26.4%	33.3%
低栄養の傾向	2.2%	4.5%
口腔機能の低下	29.4%	35.9%
閉じこもり傾向	26.4%	35.3%
認知機能の低下	49.9%	55.1%
うつ傾向	45.3%	48.1%
転倒リスク	39.1%	43.6%



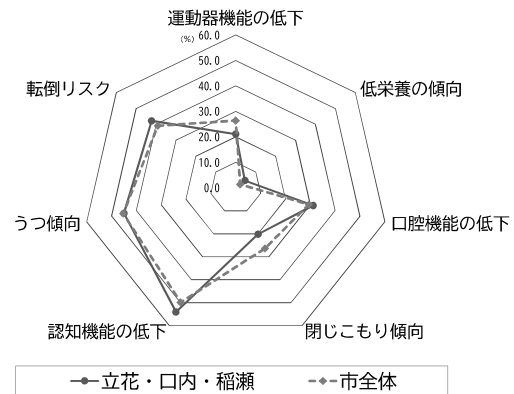
【ニーズ調査：第10次計画ビジョン指標】

	市全体	二子・更木・黒岩圏域	順位／8圏域中
主観的幸福感が高い人の割合(8点以上)	33.8%	30.8%	8番目
健康と感じている人の割合	71.3%	69.9%	6番目
暮らしやすいと感じている人の割合	63.8%	64.7%	4番目
生きがいがある人の割合	50.9%	52.6%	3番目

6-5 立花・口内・稲瀬圏域の状況

【ニーズ調査：生活機能リスク該当者】

	市全体	立花・口内・稲瀬圏域
運動器機能の低下	26.4%	21.1%
低栄養の傾向	2.2%	4.6%
口腔機能の低下	29.4%	31.2%
閉じこもり傾向	26.4%	20.2%
認知機能の低下	49.9%	54.1%
うつ傾向	45.3%	45.0%
転倒リスク	39.1%	42.2%



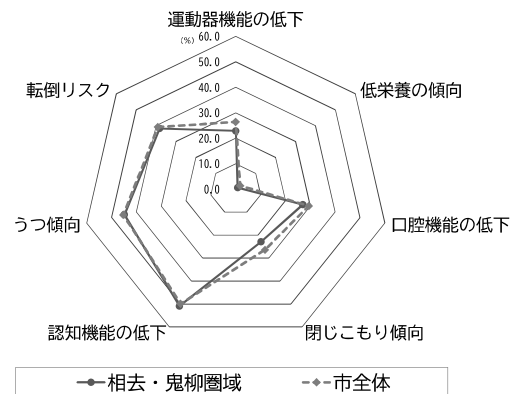
【ニーズ調査：第10次計画ビジョン指標】

	市全体	立花・口内・稲瀬圏域	順位／8圏域中
主観的幸福感が高い人の割合(8点以上)	33.8%	34.0%	4番目
健康と感じている人の割合	71.3%	67.9%	8番目
暮らしやすいと感じている人の割合	63.8%	61.5%	5番目
生きがいがある人の割合	50.9%	57.8%	1番目

6-6 相去・鬼柳圏域の状況

【ニーズ調査：生活機能リスク該当者】

	市全体	相去・鬼柳圏域
運動器機能の低下	26.4%	22.9%
低栄養の傾向	2.2%	1.0%
口腔機能の低下	29.4%	27.0%
閉じこもり傾向	26.4%	22.9%
認知機能の低下	49.9%	50.9%
うつ傾向	45.3%	44.8%
転倒リスク	39.1%	38.2%



【ニーズ調査：第10次計画ビジョン指標】

	市全体	相去・鬼柳圏域	順位／8圏域中
主観的幸福感が高い人の割合(8点以上)	33.8%	35.1%	3番目
健康と感じている人の割合	71.3%	73.2%	2番目
暮らしやすいと感じている人の割合	63.8%	59.6%	7番目
生きがいがある人の割合	50.9%	50.9%	6番目

V 調査結果からみえる課題

6-7 江釣子圏域の状況

【ニーズ調査：生活機能リスク該当者】

	市全体	江釣子圏域
運動器機能の低下	26.4%	24.9%
低栄養の傾向	2.2%	3.4%
口腔機能の低下	29.4%	27.1%
閉じこもり傾向	26.4%	29.3%
認知機能の低下	49.9%	48.9%
うつ傾向	45.3%	43.0%
転倒リスク	39.1%	36.9%



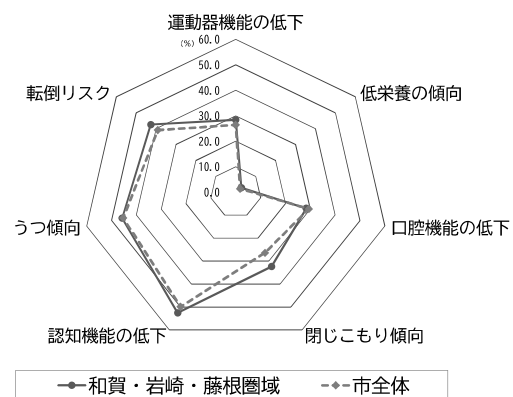
【ニーズ調査：第10次計画ビジョン指標】

	市全体	江釣子圏域	順位／8圏域中
主観的幸福感が高い人の割合(8点以上)	33.8%	37.4%	1番目
健康と感じている人の割合	71.3%	74.3%	1番目
暮らしやすいと感じている人の割合	63.8%	65.4%	3番目
生きがいがある人の割合	50.9%	53.1%	2番目

6-8 和賀・岩崎・藤根圏域の状況

【ニーズ調査：生活機能リスク該当者】

	市全体	和賀・岩崎・藤根圏域
運動器機能の低下	26.4%	28.4%
低栄養の傾向	2.2%	2.8%
口腔機能の低下	29.4%	28.4%
閉じこもり傾向	26.4%	32.4%
認知機能の低下	49.9%	52.5%
うつ傾向	45.3%	45.7%
転倒リスク	39.1%	42.6%



【ニーズ調査：第10次計画ビジョン指標】

	市全体	和賀・岩崎・藤根圏域	順位／8圏域中
主観的幸福感が高い人の割合(8点以上)	33.8%	32.4%	6番目
健康と感じている人の割合	71.3%	70.6%	4番目
暮らしやすいと感じている人の割合	63.8%	54.0%	8番目
生きがいがある人の割合	50.9%	43.8%	8番目